

メルマガ「運輸安全」第25号

□■□■□■□■□メルマガ「運輸安全」（H24. 1. 30. 第25号）□■□■□■□■□

~~~~ (目次) ~~~~~

## (トピックス)

1. 新危機管理・運輸安全政策審議官の挨拶
2. 運輸安全に関する最近の動き
  - 運輸の安全確保に関する政策ビジョンを公表しました
  - 「運輸事業の安全に関するシンポジウム2011」を開催しました！
3. 運輸安全取組事例の紹介
  - 優良事例とヒヤリ・ハット情報の収集・活用の活性化  
(事業者名：オーシャントランス株式会社)
  - 「事故のカレンダー」から事故事例を学ぶ  
(事業者名：西武鉄道株式会社)
  - 運輸安全マネジメントに関する筆記試験  
(事業者名：新日本海フェリー株式会社)

~~~~~

1. 新危機管理・運輸安全政策審議官の挨拶

1月1日付で当省大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官が交替いたしましたので、新危機管理・運輸安全政策審議官より、皆様にご挨拶申し上げます。

<内波謙一 危機管理・運輸安全政策審議官>

1月1日付で危機管理・運輸安全政策審議官に就任いたしました内波謙一です。

運輸事業を行う上で輸送の安全の確保は、根幹であり、各運輸事業者は、輸送の安全の確保が最も重要であることを自覚し、輸送の安全性の向上に努めなければなりません。

このために、国土交通省では、従来の安全規制や輸送システム整備を中心とした安全施策に加えて、平成18年から事業者の経営トップから現場までが一丸となって安全を目指して継続的改善を行う運輸安全マネジメント制度を導入しております。

運輸安全マネジメントも導入から既に5年が経過しましたが、今後の取組の方向性としては、中小事業者に対する官民連携によるさらなる普及の推進、大手・中堅事業者における



安全管理の実効性のさらなる確保等があります。また、このメルマガ「運輸安全」をはじめとして、輸送の安全に係る情報発信の充実も極めて重要です。

いずれにいたしましても、運輸事業における最大の使命である輸送の安全の確保に向けて全力を尽くして参りますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

2. 運輸安全に関する最近の動き

○ 運輸の安全確保に関する政策ビジョンを公表しました

運輸安全マネジメント評価制度が導入されてから平成23年10月で5年が経過したことや、平成22年度に行った政策レビューを踏まえ、運輸審議会運輸安全確保部会での審議を経て、今後の方向性を改めて政策ビジョンとして示すものです。

<概要>

1. 安全管理体制の確保に向けての現状及び基本的考え方
 - (1) 運輸事業の安全管理体制確保に向けての取組の経緯
 - (2) 運輸事業の安全管理体制確保の取組状況の概観
 - (3) データから伺われる運輸安全マネジメント実施の効果
 - (4) 運輸の安全確保に向けての今後の方向性
2. 安全管理体制確保に向けての今後の具体的な取組の方向性
 - (1) 中小事業者に対する啓発・普及活動の強化
 - (2) 大手・中堅事業者における安全管理の実効性の確保
 - (3) 運輸安全マネジメント評価等を行う人材の確保及び育成
 - (4) 安全管理に関する新たな動向への対応

→本文等は http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo10_hh_000024.html をご覧ください。

○ 「運輸事業の安全に関するシンポジウム2011」を開催しました！

平成23年11月28日（月）、東京都品川区にある「ゆうぽうとホール」にて、6回目となる「運輸事業の安全に関するシンポジウム2011」を開催し、運輸事業者など約1,300名の方にご参加をいただきました。

今回のシンポジウムでは、東日本大震災時の対応についての特別講演とともに「ほめる文化としかる文化」をテーマとした基調講演やパネルディスカッションを行い、運輸事業の安全についての議論を深めました。当日の動画をホームページに載せておりますので、ご興味のある方はご覧ください。

→動画等は http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_tk_000007.html をご覧ください。

<プログラム>

1. 開会挨拶

森 雅人 危機管理・運輸安全政策審議官

2. 特別講演

「東日本大震災時の対応について」村山 洋一 JR貨物専務取締役

JR貨物の東日本大震災による被災状況や、発災後の代替輸送体制の構築・支援物資の輸送等の取組及び今後の課題について報告。

3. 基調講演

「認めることでやる気を引き出す」太田 肇 同志社大学政策学部教授

やる気の高め方や上手なほめ方、認め方のほか、ほめることの必要性や重要性について、実証研究の成果等を踏まえて講演。

4. パネルディスカッション

(1) 運輸事業者より取組の紹介

①川鍋 一朗 日本交通代表取締役社長

仕事に対する意識があまり高くないタクシー乗務員のモチベーションや安全意識を高めるために行っている、社長自らが手渡しをする表彰制度、マニュアルに従った添乗モニタリングによる点数化・順位付け、及び乗務員のキャリアパスの構築等について発表。

②高松 勝三郎 オーシャントランス代表取締役社長

海運業界では、学生時代から先輩後輩の上下関係が厳しく、フェリー会社に就職後もこの上下関係は継続し、そのまま上司部下として上意下達の企業文化が形成されていることや、現在、「しかる」を基本とした伝統的な上意下達の企業文化から脱却するために行っている取組について発表。

(2) ディスカッション

○パネリスト 太田 肇 同志社大学政策学部教授

川鍋 一朗 日本交通株式会社代表取締役社長

畠山 明秀 日本交通株式会社品川営業所長

高松 勝三郎 オーシャントランス株式会社代表取締役社長

宮島 英明 オーシャントランス株式会社フェリー「おーしゃんうえすと」一等航海士

森 雅人 国土交通省大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官

○コーディネーター 木場 弘子 キャスター・千葉大学教育学部特命教授

○議論の概要

経営管理部門及び現場から見て、「ほめる」「しかる」をどのように組み合わせることがいいのか、また「しかる」際の基準、またそれらが運輸の安全確保にどのようにつなげていくかを中心に議論が行われました。

その中で、太田教授より、叱るにあたっては本人が伸びるように叱っているのか会社のために叱っているのかわかるようにし、処罰に繋がるのはよくないこと、乗客など外に向けて仕事をすると内部の人間関係も良くなっていくこと等の発言がありました。また、コーディネーターの木場氏より、利用者の安全性や快適性に対する満足度について現場職員にフィードバックすることで、現場職員のモチベーションが高まるのではないかと、との発言があった他に、森審議官より、運輸安全マネジメント評価において、褒めるために相手の努力を観察するとともに、悩んでいるところについては他の事業者や他のモードの例など解決策を示し、評価が運輸事業者の取組の参考になるように努力していくこと、事業者の地道な安全活動が国民から認められ、現場のモチベーションを上げるよう努力していきたいこと等発言がありました。

3. 運輸安全取組事例の紹介

今回は、編集部が最近お話を伺った運輸安全取組事例を2件と運輸事業者の方から紹介のあった1件を掲載します。

○優良事例とヒヤリ・ハット情報の収集・活用の活性化

(事業者名：オーシャントランス株式会社)

ヒヤリ・ハット情報の収集・活用の活性化を図るため、ヒヤリ・ハット情報の収集時に優良事例もあわせて収集し、ヒヤリ・ハット情報の報告に対するマイナスイメージを緩和させる取組を行っています。

→詳細は <http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/List/data086.pdf>

○「事故のカレンダー」から事故事例を学ぶ

(事業者名：西武鉄道株式会社)

職員全員が「安全」について考えるキッカケをつくるために、過去の事故事例を社内のポータルサイトにカレンダーとして作成・掲出し、朝の点呼（朝礼）時や職場での教育に活用しています。

→詳細は <http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/List/data087.pdf>

○運輸安全マネジメントに関する筆記試験

(事業者名：新日本海フェリー株式会社)

教育・訓練の受講者の理解度・浸透度を把握するために、受講者に対して運輸安全マネジメントに関する筆記試験を行っています。

→詳細は <http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/List/data088.pdf>